

時系列等報告書の強要は 管理者の自己保身の為！？

最近、仕業検査車両所では時系列等報告書の強要が頻繁に行われています。そのなかでも会社・管理者等での失態を社員に押しつけようと時系列等報告書を強要した件についてお知らせします。

- 10月15日朝突然、仕業作業担当者に対し田中助役から「時系列等報告書を書いてくれ」と言われ、担当者はどのような内容についてなのかと聞くと、田中助役は、「14日のA組3本目、B担当で「Z41編成14号車15D上の蛍光灯が『無い』」ので時系列を書いてくれ」と言ってきたのです。当然ながら担当者は、通常の標準化検査通り行い、蛍光灯の異常は認められなかった。と報告しています。

本当に蛍光灯が紛失！？していたら大事件だ！

とにかく「蛍光灯が無いという連絡だった」から書け、書けと迫る田中助役では話にならないので、時系列等報告書を強要された担当者は、蛍光灯紛失事件がどうなったのか片山当直助役(指令から連絡を受けた)に聞きにいったところ、「あれは大仕両は関係ない！」「車掌の報告が『ある・ない』じゃなく、蛍光灯が『ついていない』ということだから大仕両には関係ない」というのです。

担当者は、蛍光灯が無いということで時系列等報告書を書いてくれと言われ書いたのです。「どうも違うらしい」「大仕両は関係ない」というだけで済ませられる問題ではありません。社員を一切信用せず、なにかあれば一方的に時系列等報告書を強要する会社に問題があります！問題は確実な連絡、報告、聞き取りを怠った事や車掌、指令、検修当直、担当助役、この四者の連絡体制がどのようなやりとりがあったのかを担当者はもとより社員へ明らかにするべきです。

会社・管理者は直ちに時系列等報告書を強要した担当者に対し、自らの非を認め謝罪すべきだ！！